

第27回BA運営委員会の 結果について

文部科学省 研究開発局
研究開発戦略官（核融合・原子力国際協力担当） 付

日程： 令和3年6月3日（木）

※新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、オンラインでの開催

出席者：

（日本）堀内 義規 文部科学省大臣官房審議官（研究開発局担当） ほか
（欧州）マッシモ・ガリバ 欧州委員会エネルギー総局副総局長 ほか

主な議題：

1. 3事業の進捗状況の報告

- ①国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動(IFMIF/EVEDA)事業
- ②国際核融合エネルギー研究センター（IFERC）事業
- ③サテライト・トカマク計画（STP）事業

2. その他（青森県及び六ヶ所村によるホストサポート状況の紹介、次回運営委員会の開催時期・場所等）

BA運営委員会では、IFMIF/EVEDA、IFERC、サテライト・トカマク計画の3事業について、事業の進展を確認するとともに、今後の事業計画等について議論。

1. ① 国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計 活動 (IFMIF/EVEDA) 事業

- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大によるスケジュールの遅延が生じているが、調整作業にはIFERC事業協力の下整備されたLIPAC遠隔実験制御室が効果的に活用され、長パルスビーム試運転に向けた調整が進展。
- ▶ 超伝導線形加速器の最終組立に向けて、機器の製作が着実に進んでいることを確認。

② 国際核融合エネルギー研究センター (IFERC) 事業

- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大の影響はわずかであり、事業が順調に進展。
- ▶ ITER遠隔実験センターにおける技術を活用し、ITER機構、IFMIF/EVEDA事業、STP事業との遠隔参加システムの開発に貢献。

③ サテライト・トカマク計画 (STP) 事業 (JT-60SA)

- ▶ JT-60SA統合試験運転において、全てのコイルの超伝導状態へ転移、コイル冷却試験の成功裏の完了、ECRプラズマ生成を成功させるなど、多くのマイルストーン達成を確認。
- ▶ 本年3月に超伝導コイルの一つの給電線に予期せぬ電流の増加が生じ統合調整運転が中断しているが、事象についての根本原因の究明と回復策の検討が進んでいることを確認。

2. その他

- ▶ 六ヶ所サイトにおける欧州研究者、技術者及びその家族への高い水準の生活支援・教育支援に対する青森県及び六ヶ所村の多大な努力に感謝の意を表明。
- ▶ 次回第28回BA運営委員会は、2021年12月に欧州（イタリア・パドヴァ）にて開催予定。



LIPAC遠隔実験制御室